

Life-planning with you

mirai・e

■ ウッドデッキは2階のバルコニーの持ち出し分1.8mの奥行きがあり、外と中の中間領域の役目を担っている。ウッドデッキとリビングの境界には前面に内障子を設け、和のテイストを表現。昼間には壁中に引き込むことができ、開放感も抜群。■ 玄関から生活スペースを建具なしでつなげ、広さを感じられるよう回廊できる間取りとしている。廊下を取り込むことで洗面スペースやキッチン、風呂は戸建て住宅をのくほどの広さを確保した。■ 10mカウンターに向かい、廊下をはさんで部屋の中央部に配されたキッチン。ユニークかつ機能的な「手元をLDから見せないレイアウト」にしている。




■ 玄関の両サイドにカウンターを設け、東側は帰宅時にすぐ手洗いができるよう洗面スペースを、西側は土間からもカウンターを一部使えるようにして、テレワークなどの在宅勤務が気がねなくできる仕様となっている。■ 南西の角部屋という条件を生かしたのが、西側壁面に設けた10mを超えるカウンター（奥は土間）。このカウンターはもともとあった3つの出窓と高さを揃え、その上部には、あえて扉を付けず「見せる収納」としての吊り戸を設け、その上下に照明を設置している。

Life plan

住宅購入／住宅ローン見直し／保険見直し
相続贈与／資産運用／不動産コンサルティング
マイホーム借上げ制度／リノベーション

LINEで相談
右の二次元コードをLINEアプリでスキャンして友だち追加



お返事にお時間を頂く場合がございますのでご了承ください。営業時間(月～金 9:00～18:00)以外のお問合せについては後日改めて回答させていただきます。

株式会社ミライ・エ

岡山市北区西之町10-104
☎086-241-8846
宅地建物取引業 岡山県知事(3)第5292号
https://mirie.co.jp



FP業が示す「未来」と不動産の象徴である「家」を組み合わせた造語「ミライ・エ」を社名とした通り、住宅購入を検討するお客様の資金不安、老後不安を解消させることが会社の使命と考えています。家計のなかで最大の財産である「マイホーム」を正しく取得し、安心して所有し続けられるようこれからもさまざまな取り組みでサポートし続けます。

株式会社ミライ・エ
代表取締役社長 西崎 僚

「私たち」株式会社ミライ・エは、ファイナンシャルプランニング(以下FP)のコンサルティングを行なう会社です。一般的にFPというと保険や資産運用といったお金にまつわる相談と思われる方が多いのですが、これはあくまでもFPの六分野の一部で、「ミライ・エ」が主軸に置いているのは不動産です。私自身が住宅メーカー出身ということもあって現在、住宅購入をお考えのお客様に向け、住宅ローンや保険といった専門知識を生かし、「正しい購入ができるサポート」を行なっています。そう話すのは「ミライ・エ」の西崎僚代表取締役。

これまで「10年以上にわたり、年間800件を超える相談に応じてきた「ミライ・エ」。今回、さまざまな相談に対応するなかで蓄積したノウハウをベースに、自社としては初めてとなるマンションの「リノベーション事業」を手がけた。

「2005年から事業を展開する当社にとって、現在、30代・40代のお客様が50代、60代になった際、「ミライ・エ」として、どのようなサポートができるかを考えました。そこで浮かんできたのが『生活提案をベースにしたリノベーション』です。お金の不安や老後の不安を正しい知識で解消しながら、豊かなセカンドライフの提案を「リノベーション」を通じてお届けできたかと願っています」と取り組みの意図を語る西崎社長。

くしくも今回のコロナ禍により、家で過ごす時間があらゆる世代においてクローズアップされた。寝ている時間を含めると人生の半分以上は家で過ごすのだから、当然といえば当然のことかもしれない。「改めて家での過ごし方を考えるいい機会になった」と西崎社長は認識する。

「FPの分野のひとつに『リタイアメントプラン』がありますが『子育て終了』『老後』ではなく、セカンドライフと考えると、その充実こそが『いい人生』であり、その充実に『いい住宅』は欠かせない。みなさまがこの物件をどのように評価されるのか、興味が尽きません」と住空間の大切さを強調する。

せますぎず、広すぎず、高級旅館やホテルのスイートルームのような快適さを狙った今回のドラスティックなリノベーション。「ミライ・エ」の今後がますます注目される。



築29年の分譲マンションの1室をリノベーション。年齢を重ねるごとに変わっていく生活スタイルに合わせてリフォーム、3DKから1LDKへレイアウトもドラスティックに変更している。

Suteki-na Renovation by mirai・e

「住まいにどれだけお金をかけられるのか」
FPの視点で描く、確かな生活提案。
それが「ミライ・エ」のリノベーション。

「2005年から事業を展開する当社にとって、現在、30代・40代のお客様が50代、60代になった際、「ミライ・エ」として、どのようなサポートができるかを考えました。そこで浮かんできたのが『生活提案をベースにしたリノベーション』です。お金の不安や老後の不安を正しい知識で解消しながら、豊かなセカンドライフの提案を「リノベーション」を通じてお届けできたかと願っています」と取り組みの意図を語る西崎社長。



床材はすべて無垢材、家の中心となる箱部分も自然素材の塗壁に仕上げ、南側の内障子と合わせて、和モダンの雰囲気を醸し出している。照明もすべて建築照明とし、どこか高級旅館で過ごすかのような「非日常感」を演出している。